## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	インタラクティブ物質科 学・カデットプログラム	申請大学名	大阪大学
申請大学長名	平野 俊夫		
プログラム責任者	岡村 康行		

## 1. 進捗状況概要

- ・マネジメント体制、学習教育環境・システムの整備等が確実に行われており、当初計画は着 実に実施されている。
- ・実施計画については、外部評価委員会の活動等において一部遅延が認められるが、全体としては極めて順調に実施されている。
- ・生命先端工学専攻をプログラム担当専攻に加えることにより、生命科学分野に関わる物質科 学のリーダー養成を強化した。
- ・部局横断的な教育・研究を推進する大阪大学未来戦略機構の中に第3部門を設けて本プログラムを運営しており、大学としての責任体制、事務部門の支援体制も明確であり、順調に運営されている。
- ・教員・メンターと学生の間、部局・専攻の異なる教員間および学生間において、インタラクティブという理念を具現化する運営がなされていることから、物質科学分野においてグローバルに活躍する自立的なリーダーの養成が期待される。
- ・アドミッションポリシーの作成、選抜方法の具体化により選抜基準を明確にして、約1.6倍の倍率で博士前期課程2年次入学学生5名を含む24名を採用した。カデットプログラムに積極的に取り組もうとしている学生の意欲の高さが感じられた。2年次入学学生を対象にした特別選抜の制度は、博士前期課程進学後に研究者・リーダーへの意欲を持った学生を受け入れる方策として評価できる。
- ・キャリアパス支援担当の特任教授(民間企業出身)、科学英語・科学史担当の特任准教授、 若手メンターの特任助教ら7名の特任教員・特任研究員が採用され、プログラムの実施に当 たっている。特に、メンターはきめ細かい対応により学生からの信頼も厚く、「インタラク ティブ」なプログラムを実践していることがうかがえる。
- ・審査時の留意事項であった海外研修プログラムの具体的内容に対しては、海外20大学等研 究機関を現地訪問し、研修の趣旨・目的を合意・共有化する等の活動を行い、適切な対応が なされている。

## 2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)

- ・プログラムの開始に伴い、海外研修、選抜基準等の具体的内容が整備されて実施されつつあるが、学習効果や学生の負担を考慮して取り組むことが必要である。
- ・物質化学と物性物理の「100問集」は基礎知識・学力の学習ツールとし評価できるが、知識の詰め込みではなく、学習・理解のプロセスを評価する方法・工夫が必要である。
- ・魅力的な英語教育プログラムが実施されている。受講しやすい時間割上の工夫等により受講 生を増やし、さらに学習効果を上げることが望まれる。
- ・「皆で育てる」を実践するために運営委員会の下で担当教員全員が企画・運営に取り組んでいるが、コーディネーターのリーダーシップにより本プログラムに関わらない学生の指導等にも一層の注力をし、バランスを取りながらプログラムに取り組むことが望まれる。
- ・本プログラムの教育研究に対して直接的に関わる物品経費を精査する必要がある。